

令和2年1月7日(火)

生徒の皆さん、あけましておめでとうございます。どのような思いをもって、また、何を目標として新しい年を迎えられましたか。皆さん一人一人にとって実りの多い、成長の年となることをお祈りしています。

さて、昨年の秋以降、大学入試改革に係る報道や論評が、テレビ、新聞を賑わしています。いわゆるセンター試験に代わる大学入学共通テストの開始はそのままに、そこに導入されるはずだった国語と数学の記述式問題は実施が見送られました。そもそもは、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力等を育む必要から行われるはずだった入試改革の一つです。そこには、高等学校に対し「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を促していく、大きなメッセージが込められています。

国の方針や決定について、私の意見を述べる場ではありませんので、それは控えます。皆さんに申し上げたいのは、記述式問題の導入が見送られたからと言って、皆さんが身に付けるべき力、今後の社会を生き抜く上で必要かつ大切とされる力は、何ら変わらないということです。先に申し上げたセンター試験から共通テストへの移行は、将に2年生の皆さんが対象となります。個々の教科で出題方針が見直され、読解力などを問うために、難易度は現行のセンター試験よりも上昇する可能性が高いとも言われています。こうした流れは、推薦やAO入試でも変わらないと予測できます。

一方で、私は大学を受験しないから関係ない、僕は3年生だから大丈夫、という声が聞こえてきそうです。でも、「今後の社会で重要となる力」を鍛え上げてきた同年代、あるいは後輩たちと、生涯に渡って、この先どのように競っていきますか。

繰り返しますが、これからの社会や仕事において、思考力・判断力・表現力、さらに読解力などは、ますます重要性を増します。だからこそ本校では朝読書を行い、多くの先生方がグループワークやまとめ文を授業に取り入れ、特に1年生には、これらの活動の基礎となる知識・技能の定着を目的にスタディサプリを導入しています。これらの仕掛けに応えるか否か、後は皆さんがお考えになることです。

昨年の11月、文部科学大臣の記者会見で主題となったのは英語民間試験導入見送りではありませんが、グローバル社会における英語コミュニケーション力の重要性を述べた上で、その発言にはこのような件（くだり）がありました。

「皆様には、これからも日々の授業を大切にするとともに、それぞれの目標に向かって努力を積み重ねて頂きたいと思います。」

私には、「入試がどう変わろうと、毎日の地道な取組にこそ目を向けるべきです。」と聞こえましたが、どう思われますか。

卒業と進級を判定する3学期、健康維持に留意し、甘えることなく、妥協せず、全力で頑張ってください。終わります。